

令和4年度第1回米沢ブランド戦略会議 会議録

1 日 時 令和4年6月28日(火) 13:30~14:30

2 場 所 米沢市役所3階303会議室

(出席委員)

戦略会議：柴田正孝会長、宮坂宏副議長、中川浩一委員、今村元一委員、坂川好則委員、
江部恵子委員、伊藤浩志委員、齋藤和也委員、佐々木裕孝委員、吉澤彰浩委
員、本多作之助委員、新田源太郎委員、安部宏海委員、兵庫濃委員

事務局：本間米沢ブランド戦略課長、後藤米沢ブランド戦略課長補佐 佐藤(美)米沢
ブランド推進主査、佐藤(功)米沢ブランド戦略課主任

博報堂：荒谷成美氏

3 会議録(要点のみ)

(1) 開会

(2) 議長あいさつ

(3) 議事

議事第1番、報告事項。

・TEAM NEXT YOEZAWAの登録状況について(R4.6.14現在)【資料1】

議事第2番 協議事項

・米沢品質 AWARDの更新スキーム(案)について【資料2・3・4】

議事第3番 その他

4 閉会

※事務局、資料1について説明。

※事務局、資料2、3、4について説明。

(議長)

スケジュール案からするとこの場で決定しないと時間がないので、本案についてご意見を一人ずつ頂戴したい。

(委員)

これで賛成。

(委員)

基本的にこれで賛成。数値で示せる成果については、コロナ禍で大変な方もいらっしゃる

のでご意見頂ければと思う。

(委員)

この内容で賛成。AWARD を維持する事は難しいが、更新で更に前向きに進まなければならないというプレッシャーが大変だろうと感じる。

(委員)

レストランのメニューでの実績や、今後の取り組みを形にするのは問題ないが、受賞された方の中には、実績や見た目の変化を評価するのは難しい部分もあるかもしれない。形として残すためにもしなければいけないので賛成。

(委員)

賛成だが、消費者からみて米沢ブランドが分かりにくい。市民に分かりやすい説明をしていただきたい。

(議長)

確かに市民にとって分かりにくい。様々なメディアで PR はしているが、まだ完全な認知はされていない。

(事務局)

AWARD の認知度は高まっているが、選んで終わりと市民の方は認識をしている。だが米沢ブランド戦略は選んで終わりではなく、更に質を高めようとする米沢品質向上運動を継続させる事が重要。3年前に選ばれた AWARD が更に進化したかを審査し、そのことでまた新たな発信ができ、米沢ブランドは、今後もこの様に続いていく運動だと再発信できるので、今回はとても重要だと思っている。

(議長)

今のご指摘に基づき、初心にかえるということ。

(委員)

スケジュールは賛成。規定に関して、3年更新で目に見えるところ、目に見える成果をしっかり評価していただければと思う。また、『更新した』という証をシルバーやゴールドにし、更新ごとに分かりやすくして頂ければ選ばれた方々がプライドを持って進められるのではないかと。形骸化しない様、継続的に取り組んでいる方を評価できる様にするべきではないか。

(議長)

その様なご意見は以前にも頂いている。シルバーかゴールドにするという意見は張り合いがありとても良い。まだ一回目の更新なので、その意見は預かりその次の更新までどの様にするか、また認可できるか考えさせて頂きたい。

(委員)

ブランドリーダーとは何か？

(課長)

米沢品質向上運動を牽引する者。その象徴が AWARD を受賞した方に担っていただこうとその様な名前で呼んでいる。

(委員)

申請書の内容 2 番 3 番について、項目を分けて書くのは難しいのではないかと。2 番は成果、その中に数値で示せる示せないものを記入。3 番の挑戦と創造は重なる部分もあると思う。可能であればシンプルに表現できればいいと思う。

(議長)

自分が書いてと言われたら 3 番目は難しい。融合してシンプルな設問にする事は、書き手側も思うかもしれない。今すぐ答えは出せない。どの様に変更したかについては事務局で受け止め、プロジェクトの方に相談した後、私に一任いただきたい。

(委員)

2 回ほどプロジェクト会議を行い議論し、この様な形になった。更新スキームの案については、2022 年の AWARD があるので、そこをうまく被せることによって、過去に AWARD を取った方が取って終わりではなく、その後どの様になっているかを、上手く市民に見せていこうという内容の更新スキームのスケジュールになっている。

今回のスキーム案の議論で出てきた「ブランディングの目標とは何か？」は、売り上げを上げる事だけが目的ではない。数字も大切だけど数字だけではない。数字は結果的な物。『どの様な気持ちを持って地域内にある素材を磨いていくか』という気持ちが大切で、挑戦と創造をし続けているかが更新の条件である。ブランディングを売上など商売に反映させていきたいというものはあるが、直接的な目標ではない。多様化の時代なので様々な取り組みを行っているところがあるが、米沢のブランドは挑戦をしていく事、新たに創造をしていく事、この共通の文脈を持って取り組む事が大切。

(議長)

その通りだと思う。先ほどの佐々木さんのご意見も、それを受け止めて書けというとなかなか難しい。吉澤委員がおっしゃったような主旨にそって書いて表現して頂ければと思う。

(委員)

プロジェクト会議で議論し形にしていく作業を行ってきた。3番目の設問については1番議論してきた。AWARDを取った後も挑戦と創造をし続けるブランドリーダーとして取り組んでいくというところ。どの様な挑戦と創造があったか、具体的に皆でAWARDを取ったところを議論してみた。磨いてより良くしているところ、違った取り組みをしているところ、追い風をもらってそれに帆を立てるような策を取ったところ。同じ事を磨き上げる事も大切、新たなものを磨き、より良い品質管理に取り組んでいるのも大切、そして、商品の開発を広げようとアピールできる様な場所があれば、もっと様々な形が見えてくる。

更新申請書を書くことにより、次は違った形でAWARDを取りに行こうと考える方も出てくるかもしれない。また、ランクアップか別部門でやるかという道も見えてくるのではないか。だからこそ公開プレゼンテーションの場を、ただ更新ではなく、更新された方もアピールできるような場にしたい。

(議長)

更にということが大切。ただ単に年数を重ねるだけではなく、これをフックにしてグレードアップしていくということ。3番目の設問の主旨については、事務局の方で理解していると思うのでいかに分かりやすい設問にしていくかが大切。

(委員)

プレゼンを見た方だと、作り込んで自分の商品、活動に対してアピールしAWARDを取った方が非常に多かった。私の見解からすると文字数制限した方がいい位の文章になるのではないかと想定した。そのような意味では分かりやすいし、分からなければ事務局が対応するという話も出た。また、ブランドリーダーは前向きで、取り組みを学生から一般の方々へ幅広くアピールしていく機会となつて広がっていくのではないか。コロナ禍が明けたらその活動をブランドリーダーとしてもっと意識しなければいけないと感じた。

(議長)

色んな想定を考えられた。

(委員)

プロジェクトの皆さんの意見と同様。先程江部委員からあった、一般消費者にもっと知ってもらおうきっかけを作るのが大切。今回の申請書はWEB公開を検討する。ただ形式的に提

出してもらおうではなく、その先の目的として、受賞された方にもう一度光を当てるとのことと、一般の方に知ってもらいきっかけになるという重要な意味があると認識している。公開の仕方も一般消費者からホームページを見に来てもらうのではなく、プッシュ型でお知らせする必要があると感じた。

(議長)

この申請書はただの申請書ではなく、その中身については、もう一度ヒアリングをし直したり、主旨に添ったヒアリングをし直す。また、文字媒体だけではなく、多様な申請をしてもらい自分たちがこの様な活動を継続しているとアピールをしなければならない。

それを多くの人々に再び知って頂く事なのだと思う。

(委員)

賛成。皆さんのご意見を聞きながら感じたが、3年に一度申請書を出して更新になるが、更新とは別に1年間の活動を評価するような仕組みを作り、米沢品質のバッチの下に星が増えていくような取り組みがあれば面白いかなと思う。

(議長)

その様な事だと思う。AWARDを取ったか取らないかで終わる話ではない。

皆さんからのご意見を頂き集約すると、事務局とプロジェクトのメンバー作成の議案については、賛成していただいたということによろしいか？

ただ、一つ一つの事に関し質問があったが、プロジェクトメンバーの方から主旨の説明があり集約できる話である。申請書は一つの申請書であり、申請書の中身については主旨がマッチするようなヒアリングの仕方が必要。多様な表現を受け止め、それを皆様に知らしめるより、広く市民の方に分かりやすいブランド戦略になるように努力していくという事でまとめさせて頂く。

スケジュールの件も原案通り賛成させていただく。

その他皆様から意見はあるか？

(委員)

伊藤委員からあったように、ステータスを決めるという以外に、更新者へ何かインセンティブを考えているか？

(議長)

例えば、更新申請した人はもう一度アピールしてあげるといい。トランヴェールに全部載せる事が出来ればいいが、プロジェクトで具体的な話は出たか？

(事務局)

プロジェクト会議の中でもこの話はいただき、認定証を違うデザインにし発行できないか協議している。

(事務局)

2022年AWARDの発信と合わせ、2019年の第一回目の更新、と言うことで三年間の中で進化したことや、新たにこれからも挑戦と創造を続けていくという内容のものを合わせて発信できればと考えている。番組になるのか山形新聞の紙面になるのか広報よねざわの特集紙面になるのか、その辺は検討させていただきたいと思う。

(事務局)

以上で戦略会議を終了する。